

【応募用紙】

提出いただいた応募書類（規約・会則等、役員名簿、収支書類を除く）は、活動内容紹介のため、ホームページ上に公開します。

1 応募者概要

団体名	(ふりがな: よこはましりつ おりもと しょうがっこう) 横浜市立 折本 小学校		
代表者の役職・氏名	(ふりがな: さかえ ひでゆき) (役職) 校長 (氏名) 榮 秀之	会員数	(令和2年10月現在) 715名
ホームページアドレス	https://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/orimoto	活動開始年月	平成 27 年 4 月
活動範囲 (複数選択可)	1 学校内 2 学校外 (地域の公園・広場・畑等)		
活動分野 (複数選択可)	1 川・海・水 2 緑・樹林 3 農業 4 3R 5 環境教育・学習 6 生物多様性 7 地球温暖化対策 8 その他()		
活動の目的やねらい	花・野菜の栽培やビオトープづくりなどの活動を地域と共に実践することを通して、持続可能な社会の形成及び環境保全や環境美化への主体的な態度の育成を図るとともに地域を愛する気持ちを醸成する。		
過去に受けた表彰および受賞年度	なし		

2 最近3年間の主な活動

	活動・取組・イベント等の名称 発行した印刷物等の名称	参加人数、 発行部数等	詳細内容
平成30年度	『花いっぱい、生き物いっぱいの学校づくり』 ①全校児童による花いっぱい運動 ②学校ビオトープづくり ③野いばら復活物語	①750名 ②50名 ③50名	① 全校児童による花いっぱい運動 ・36年前から続いている「一人一鉢の花いっぱい運動」をより一層充実させるために、夏のミニヒマワリ、秋のコスモス、来春に向けたチューリップの栽培にチャレンジして1年中花いっぱいを実現させた。【3ページ】 ・環境委員会の児童が主体となり、咲き終えた花から種をとって次の年にその種から花を育てることにチャレンジするようになった。 ② 学校ビオトープづくり ・3年生のクラスが、総合的な学習で、専門家や造園業者とコラボレーションをしながら池のビオトープ化を実現させた。【3ページ】 ③ 野いばら復活物語 ・3年生のクラスが、総合的な学習で、バラの専門家や地域の方の協力を得ながら、今は地域で見られなくなった野いばら(校章のデザイン)を復活させた。【4ページ】

令和元年度	<p>『地域とともに祝う 創立 70 周年』</p> <p>①花いっぱいを広げよう ②折本オリジナルどら焼きでお祝いしよう ③安納芋でお祝い給食</p>	<p>①730 名 ②40 名 ③800 名</p>	<p>① 花いっぱいを広げよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童、職員、地域、PTA が心一つにして花いっぱい運動を展開した。【5 ページ】 ・都筑区役所からいただいた区の花「サクラソウの苗」を子どもたちが育てて学校や地域を彩った。 ・環境委員会の児童が、花壇に花文字を作った。 <p>② 折本オリジナルどら焼きでお祝いしよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・6 年生の総合的な学習の時間で、地域の菓子専門店の協力を得ながらオリジナルどら焼きづくりにチャレンジした。地域の食材「小松菜」を生かして試行錯誤し、70 周年記念祝賀会で披露した。【6 ページ】 <p>③ 安納芋でお祝い給食</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の方からいただいた安納芋の苗を地域の畑で栽培した。収穫した 2000 本の安納芋の一部を「お祝い給食」のメニューにした。【6 ページ】
令和 2 年度	<p>『花を自分たちで種から育てて夢を広げよう』</p> <p>①種から育てる全校児童による花いっぱい運動 ②種か地域に花を届けよう ③春夏秋冬、花いっぱいの学校づくり</p>	<p>①720 名 ②80 名 ③30 名</p>	<p>① 種から育てる全校児童による花いっぱい運動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度学校で咲かせた花の種を使って、初めて子どもが種からの栽培にチャレンジした。一人一鉢として夏に種まきをしたコスモス、マリーゴールドが 10 月現在咲き誇っている。 <p>② 地域に花を届けよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3 年生と 4 年生のクラスが、総合的な学習で育てた花を地域に届けようと栽培にチャレンジしている。 <p>③ 春夏秋冬、花いっぱいの学校づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境委員会の児童が、季節ごとに「マイプランター」を作成し校庭で花を咲かせている。 ・環境委員会の児童が、地域の方からいただいた花などを花壇に植栽し育てている。

H30 『花いっぱい、生き物いっぱいの学校づくり』

①全校児童による花いっぱい運動



35 年前から始まった全校児童による「一人一鉢の花いっぱい運動」は、今も引き継がれ、さらに充実している。

②学校ビオトープづくり



3年生が総合的な学習で造園業者の協力を得てリメイクした学校の池。カエル、メダカ、ヤゴなどが棲みついている。休み時には子どもたちが生き物観察にやってくる人気スポット。

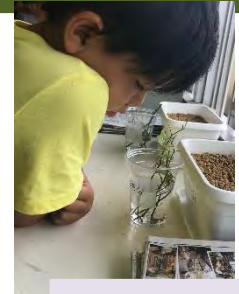


③ 野いばら復活物語

校章のデザイン「野いばら」の咲く折本の原風景の復活を夢見て、H30年度、3年生が地域の方々やバラの専門家の温かい心に触れながら取り組みました。やっと見つけた野いばらの原生地から枝を分けていただき、挿し木にチャレンジしました。育てた苗は、学校のビオトープや地域に植え、5月の連休明けに白い可憐な花が咲きました。



地域の方々にインタビューしたり、バラの専門家に教えていただいたり...



挿し木で野いばらを育てて...



野いばらの咲く折本の原風景を夢見て、育てた苗を学校や地域に植えました。

R1 『地域と共に祝う創立 70 周年』

①花いっぱいを広げよう



地域の自治会長さんをお願いをして、地域の広場にサクラソウを置かせていただいた。



環境委員会の児童が、都筑区の花「サクラソウ」を苗から育てて校内や学校の回りに置いた。



創立 70 周年を記念して、環境委員会の児童が、花壇に花文字を作った。

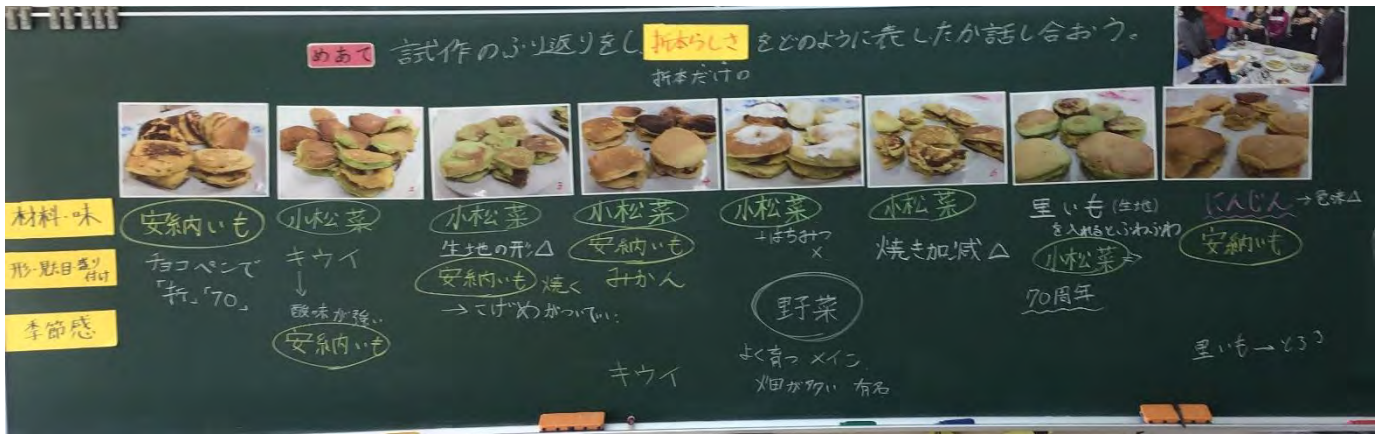
3 年生のクラスが、総合的な学習で 70 周年キャラクター「スマイル・ラビット」の花絵を作った。



②折本オリジナルどら焼きでお祝いしよう



創立 70 周年のお祝いに、6 年生の児童が総合的な学習でオリジナルどら焼きづくりにチャレンジした。「折本らしさ」を出すために地場野菜の小松菜を材料に入れて何度も試作をしながら完成させた。



③安納芋でお祝い給食



地域の方と一緒に安納芋の苗植え



畑いっぱい広がった安納芋の葉



収穫した安納芋は、給食で焼き芋と芋チップに変身



地域の方と一緒に安納芋の収穫

R2 『花を自分たちで種から育てて夢を広げよう』

①種から育てる全校児童による花いっぱい運



環境委員会の児童が、種から花（葉牡丹やパンジーなど）の栽培にチャレンジ。秋の花が終わった後、一人一鉢に植え替えられるように根気よく育てている。



環境委員会の児童が、地域からいただいたパンジーなどの花で、「ドリームガーデン」を作り日々大切に育てている。



全校児童が種から育てたコスモスとマリーゴールドが、秋の校庭を美しく彩った。

3 地域との関わり

	活動・取組等の名称	詳細内容
学内の生徒等や教員、保護者との関わり	畑の管理 花壇の植栽	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員の学校運営組織に「花いっぱい部」を置き、一人一鉢運動等の計画や運営をしている。また、地域から借りている畑の使い方の年間計画や調整等をしている。畑は、1, 2年生が生活科で、6年生が理科で活用するほか、様々なクラスが総合的な学習でも毎年活用している。 ・PTAの環境美化委員が、学校花壇の植栽や管理をしている。 ・5, 6年生児童の環境委員会児童が、花壇の植栽や日常的な管理をしている。R1年の創立70周年記念では、「折本70年」の花文字を作った。
自治会・町内会との関わり	花いっぱい運動	<ul style="list-style-type: none"> ・町内会長にお願いをして、地域の町内会が管理している広場に子どもたちが育てた花のプランターを置かせていただいた。 ・子どもたちが挿し木で増やした「野いばら」を、自治会長・町内会長にお願いをして地域に植栽をさせていただいた。 ・自治会長から、毎年安納芋の苗をいただき、地域から借りている畑で地域の方に教えていただきながら子どもたちが栽培している。
学外団体との関わり	地域の花いっぱい運動	<ul style="list-style-type: none"> ・「ハマロード・サポーター」は、身近な道路の清掃や美化活動等を行うボランティア団体で、地域の花いっぱい運動を展開している。毎年3年生が、「花」をテーマにした総合的な学習でかかわっている。花の植栽をボランティアや幼稚園・保育園の園児と一緒にやっている。 ・地域の農家の方から、毎年パンジーの花を200株程いただき、学校で児童が育てている。
企業等との関わり	花や野菜の栽培	<p>本校学区には畑が広がっており、野菜を栽培している農家が多い。1, 2年生の生活科での栽培学習や3年生社会科の生産に関する学習で、農家の方々にかかわっていただいている。生活科では、野菜の栽培で困ったときに助言をいただいたり本物の野菜作りを見学したりしている。社会科では、ハウレン草や小松菜の栽培について、体験したりインタビューに答えていただいたりしている。</p>
行政との関わり	①緑アップ事業 ②都筑区25周年記念行事	<p>①H30年に3年生が総合的な学習で学校ビオトープづくりに取り組んだ時に、横浜市環境創造局みどりアップ推進課の学校等緑化助成事業に参加した。NPO法人よこはま里山研究所からビオトープアドバイザーを派遣していただき、子どもの活動をサポートしていただいた。</p> <p>②R1年に、都筑区役所区政推進課が、区政25周年記念事業として区の花サクラソウ配付をした。苗をいただいた3年生が、総合的な学習で栽培し、開花したときに校内外や地域に植栽して、サクラソウが自分たちの暮らす区の花であることを広めた。</p>
その他、環境以外の分野との関わり	生活科、総合的な学習	<p>本校の生活科や総合的な学習、社会科等は、地域を教科書に展開されている。地域の方々も非常に学校に協力的で親身に関わってくださっている。農家の方々とかかわりの他、まち工場見学、駅前商業施設見学、消防署、警察署の出前授業、近隣保育園との交流等が毎年行われている。</p> <p>福祉教育の一環として、聴覚障害者との交流や手話体験、ブラインドサッカー選手とのふれあい、高齢者疑似体験・車いす体験等をカリキュラムに位置付け、体験やふれあいを通して誰とでも共に生きていくことの意味や大切さについて考えている。</p>

4 団体の発足経緯、活動を始めたきっかけ

【地域を教科書とした教育活動】

折本小学校は今年度で創立 71 年目を迎え、開校以来地域と共に歩んできた。昨年度は創立 70 周年記念を、子ども、地域、PTA、教職員が一体となってお祝いする節目の年になった。学区には畑が広がり、雑木林も残されている。学校のすぐ近くを川が流れ自然が豊かな地域である。一方、学区内には商業施設や町工場なども多く、多様な人の営みのある地域である。

このような地域の特色を生かして、地域の自然、文化、郷土史、産業等を貴重な教育資源とするとともに、そこに営む人々とのかかわりを大切にしてきた。2017 年度からは、カリキュラム・マネジメントの一環として地域人材バンクをデータ化して一括整理し、教職員全体で共有・活用できるようにしてきた。地域を教科書にした具体的な学習活動例を次に示す。

- 2 年生の生活科の学習で、地域の農家の方から借りている畑で野菜栽培に取り組み、本物の野菜栽培と比べながら学習をしたり、困ったときに農家の方に聞いたりしている。
- 3 年生の社会科の学習で、学区でほうれん草栽培をしている農家の方から栽培の努力や工夫について教えていただいたり畑での作業の様子を直接見せていただいたりしている。
- 5 年生の社会科の学習で、学区の町工場で生産ラインを見学させていただき、工業生産で働く人の思いや努力・工夫について直接学んでいる。
- 6 年生の総合的な学習で、児童が地域の伝統行事「獅子舞」について興味をもち、歴史や技能を教えていただきながら伝統芸能を大切に思う気持ちや態度を育てた。
- 6 年生の総合的な学習で、学区の駅周辺に店を構えて働いている方々を訪ねて仕事内容や仕事への思いを聞き取り、仕事に対する自分の考えをまとめてレポートにした。

【36 年前から続いている全校で取り組む花いっぱい運動】

全校児童が、一人一鉢で花を育てる活動は、昭和 60 年の創立 35 周年を記念して始まったと伝えられている。花を栽培することを通して、学校の明るい環境づくりをすることや子どもたちの豊かな情操を育むことを目的としている。「花いっぱい運動」をより一層広げるために、2019 年度には創立 70 周年記念事業の一環として、児童、教職員、地域、PTA が一体となって「花いっぱい運動」に次のように取り組んだ。

- 児童：環境委員会児童が、花（マリーゴールド）の栽培に取り組み、花壇に「70 年」「折本」という花文字を作った。また、育てた花のプランターを地域の広場に置かせていただいた。
- 教職員：学校運営組織に「花いっぱい部」を置き、花の栽培に関する地域との連携や子どもへの支援を行った。
- 地域：花の栽培をしている農家の方が、学校にパンジーを 200 株寄付してくださった。また、地域の花弁専門の方から、花いっぱい部の職員に花の栽培についてアドバイスをいただいた。地域の美化活動をしているボランティアの方が、本校児童と一緒に地域で花の植栽を行った。
- PTA：環境委員会の方々が、年間を通じて学校の花壇に花を植栽し管理した。

5 今までの活動

活動の目標・ねらいに対する成果

【一人一鉢運動】

創立 35 周年事業（36 年前）の一環として始まったといわれる全校児童による一人一鉢運動が現在も続いている。地域の方からいただいたチューリップの球根を育てる活動を、2017 年度から少しずつ発展させてきた。

2017 年度：春から夏にかけて「ミニヒマワリ」を種から栽培

秋にチューリップの球根植え

2018 年度：春から夏にかけて「ミニヒマワリ」を種から栽培

夏から秋にかけて「コスモス」を苗から栽培

秋にチューリップの球根植え

2019 年度：春から夏にかけて「ミニヒマワリ」を種から栽培。

秋から冬にかけて「ビオラ、ストック、葉牡丹」の寄せ植えを栽培。

2020 年度：春から夏にかけて「ビオラ、ストック、葉牡丹」の寄せ植えを継続栽培

夏から秋にかけて「コスモス、マリーゴールド」の寄せ植えを栽培

秋から冬にかけて「パンジー、ビオラ、アリッサム」の寄せ植えを栽培

2017 年以前は、秋にチューリップの球根を植えて、春に咲かせる取組をしていた。校門を入ってすぐ目の前に前に並ぶチューリップで新 1 年生を明るく迎え入れようという思いで続けていた。その後、春以外にも花を咲かせることと、子どもたちが水やりなど栽培の世話を経験できるようにすること等をねらいとして、花いっぱい部（教職員）が年間の花暦を作って栽培活動を広げて行った。自分の鉢に名札を付けて、水やりや雑草抜きなどをしようとする子どもたちが増えていった。さらに、児童の環境委員会が主体となって、咲き終えた花から種を取って次の年にその種から花を育てることにチャレンジするようになってきた。

【児童の環境委員会】

5, 6 年生児童の環境委員会では、学校環境美化の取組として、花の栽培を柱としている。2019 年度の創立 70 周年の年には、花壇に花文字をつくったり、自分たちで育てた花を地域の広場に置かせてもらったりした。また、一人一人が「マイプランター」に好きな花を自分なりに寄せ植えして正門近くを飾っている。

2020 年度は、全校分のパンジーやビオラ等の種植えをして育てている。



地域に生息するカブトムシのひみつをさぐる

2020年度の3年生のクラスが、総合的な学習の時間で、地域で見られるカブトムシが、どのように命をつないでいるのか体験的に探究している。

1 活動のきっかけ

虫が大好きな児童の多い3年生のクラスで、地域でつかまえたカブトムシの成虫を教室で飼っていた。児童は、オスとメスが交尾をするようすや土の中に白い小さな卵が産みつけられていることを観察した。カブトムシは、卵からどのように成長していくのかクラス全体の関心事になり、総合的な学習の時間で地域のカブトムシの生態等を探究することになった。

2 地域のカブトムシは、どこで産まれているのだろう。

本校の学区には畑や雑木林が広がっており、夏になると登下校中にもカブトムシを見つけることができる。教室の虫かごの中でカブトムシが卵を産んだことをきっかけに、地域ではどこで卵が産みつけられているのかという疑問が出てきた。学区の農家で、たい肥作りをしているところから毎年たくさんのカブトムシが出てくることを知った児童は、そのたい肥置き場を見せていただくことになった。

3 カブトムシの幼虫を見つけたよ。

農家の方にたい肥置き場まで案内していただき、たい肥を掘っていくと、中から何十匹という幼虫が出てきた。農家の方をお願いをして、幼虫を学校に持ち帰り自分たちで飼うことにした。



4 カブトムシ博士になって、学校みんなにカブトムシのひみつを伝えよう。

学校でカブトムシの成長の観察と飼育が始まった。えさになる枯れ葉は、学校の桜の落ち葉を使い2日に1回霧吹きで水分補給をしている。12月に予定されている学習発表会で、これまで明らかになったカブトムシの秘密や魅力を伝えることにしている。

また、年度末に育てたカブトムシの幼虫を育ててくれる人に配付して、地域のカブトムシの命をつないでいくことの大切さも伝えたいと考えている。



6 今後の活動方針

本校の学校教育目標は「夢をもち自分たちの力で未来を創り出す子ども」である。この目標を実現している具体的な子どもの姿の一つとして、「地域・社会と直接かかわり、よさを理解している子ども。」「地域・社会のためにできることを実践し持続可能な社会を創造しようとしている子ども。」がある。そのために学校全体で、地域の人とのかかわりを重視するとともに、地域の自然、産業、文化、歴史等を教材化することや生活科・総合的な学習の時間を中心とした地域理解や地域社会貢献への取組を推進していく。本校の環境活動はここに位置づけており学校のカリキュラムの中に埋め込まれている。その中で特に重点をかけていくことは次のとおりである。

【花いっぱい運動】

- (1) 一人一鉢運動・・・36年前から続いている全校児童による一人一鉢で花を育てる活動は、今後も継続していく。学校運営組織に各学年から1名の教員、技術員で構成する「花いっぱい部」を設けて、四季に応じた花を咲かせられるように計画を立てる。また、「花いっぱい部」は、児童の環境委員会やPTAの環境美化担当及び地域との連携も行う。
- (2) 児童の環境委員会
 - ・・・一人一鉢で育てる花の種まきと育苗を行う。また、自分で花の寄せ植えを考えてマイプランターを作って校庭に飾ったり地域に花のプランターを置かせてもらったりする。
- (3) 地域の方の協力・・・今後も継続して、地域の方に花いっぱい活動に協力をお願いしていく。花の苗をいただく、栽培方法について指導・助言をしていただく。

【カリキュラムの中での環境教育】

- (1) 生活科・総合的な学習の時間
 - ・・・低学年の生活科の学習では、花や野菜の栽培活動を行うことにしている。子どもたちは花や野菜を種や苗から育てることになるが、地域の農家の方とかかわることにより豊かな学習ができる。3年生以上は、地域の自然、文化、歴史、産業等を教材にテーマを設けて総合的な学習を展開している。今後も、自分たちの身の回りの自然環境や地域の方々と直接かかわりながら体験的で問題解決的な活動に取り組んでいく。
- (2) 教科等
 - ・・・理科や社会、道徳などでも身近な自然環境を扱ったり環境問題について考えたりする。扱った地域教材は、本校の電子カリキュラムにデータとして整理し全職員で共有、更新できるようにする。

【地域との連携】

地域との深いかかわりは今後も大切にしていきたい。地域の自治会・町内会長、児童委員等で組織されている学校づくり協議会を通して、地域を教科書とした教育活動を実際に見ていただいたりよりよい方法を一緒に考えていただいたりして、地域とあゆむ学校づくりを推進していく。

7 審査にあたり、最も注目してもらいたい取組、PRポイント

【最も注目してもらいたい・評価してもらいたい取組】

花いっぱい運動が、循環型になっていること

秋、学校の桜が大量の葉を落とす。児童や職員が落ち葉を温床枠に入れる。枯葉はここで分解・発酵して腐葉土になっていく。カブトムシの幼虫もこの中で育っている。



花が咲き終わったら、児童や職員が種をとって保存しておく。



全校児童が自分の鉢に種をまくのと並行して、環境委員児童が他の花の種まきをする。



育てた苗は、一人一鉢、学校花壇、地域などに植栽する。



学校、地域、保護者が花でつながっていること

1975年の学校移設時に、地域の方が植樹して下さった桜

地域とのつながりは、地域を教科書とした教育活動、地域の代表者で構成する学校づくり協議会での情報共有や相互理解、地域行事に児童や教職員が多く参加することなどの積み重ねによって築かれてきた。

一人一鉢運動

毎年地域の農家の方から届けられるパンジー

PTAの方が季節に応じて植栽する花壇の花

地域の一角に置かせてもらっている花

学校の敷地外に植栽した花

挿し木で増やした野いばら

地域に残っていた野いばら

地域を教科書に学習が展開されていること



はまなしの栽培にチャレンジ(総合)



野菜の生産者にインタビュー(社会)



給食委員会児童が畑でニンジン栽培。給食の食材にして食育につなげている。(特活)



ハマロードサポーターの方、近隣の園児と一緒に地域の沿道に花を植栽(総合)



5年生が、農家の方とかかわりながら「お祝いオリジナルポップコーンづくり」にチャレンジ(総合)



1年生が、地域の方と一緒に安納芋の栽培にチャレンジ(生活)



4年生が、果樹園の方とかかわりながら「干し柿」づくりにチャレンジ(総合)